

2017 年度 ANNUAL REPORT



公益社団法人 日本フィランソロピー協会

目次

2017年度アニュアルレポート発行にあたって	3
はじめに	4
出版事業	
機関誌「フィランソロピー」	6
出版物 / 冊子	7
研修事業	
定例セミナー	8
フィランソロピーセミナー in 関西	9
Stone Soup Club	9
経営者向け「CSR エグゼクティブセミナー」	9
顕彰事業	
企業フィランソロピー大賞	10
まちかどのフィランソロピスト賞	11
企業のCSR支援事業	
従業員ボランティア推進プログラム	12
寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）	15
物品寄贈「あげます・もらいます」事業	17
助成事業	17
次世代育成	17
高齢者支援	17
環境保全	18
NPOの次世代リーダー育成	18
社員研修支援	19
東日本大震災の被災地支援	19
次世代育成事業	
チャリティーチャレンジ・プログラム	20
チャリティー・リレーマラソン	21
子どもの貧困 対策プロジェクト	22
共生社会づくり推進事業	
フィランソロピー名刺	23
寄付川柳	24
日本フィランソロピー協会へのメッセージ	25
資料編	
機関誌	26
定例セミナー	27
寄付推進プログラム（NPOへの支援）	28
財務データ / 会員数 / 役員	30

注：各種セミナーやイベント等の実施実績に記載の個人の所属および役職は、特に注記のない限り、実施時のものです。

2017年度 アニュアルレポート発行にあたって

公益社団法人日本フィランソロピー協会は、「民主主義社会の健全な育成」をミッションとし企業フィランソロピーを核に従業員はじめ個人の社会参加の推進をめざしています。

2017年度の活動報告と今後の方向性について、アニュアルレポートをお届け申し上げます。

SDGs 時代における社会貢献を推進

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において採択されたSDGs（持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals）は、経団連行動憲章の改定においても、従来の延長線上ではなく、社会変革のために、ステークホルダーと共に、社会経済システムをはじめ、一人ひとりの価値観の変換をも促すことが必要である、という覚悟あるものとして捉えられています。各企業も、独自性を活かしながら、課題解決のみならず次世代の新たな価値創造に向けた取り組みをめざして腐心しておりますが、とりわけ、経営層の理解は不可欠です。当協会でも、2017年度に経営層向けのセミナーを始めました。CSRの全体像を把握し、SDGs時代の自社の方向性を考える機会としていただけたようで、2018年度も開催してまいります。また、従業員の社会参画の重要性を認識する企業も増え、ボランティア参加推進に関心が高まっています。当協会のボランティアマッチングも、人材育成の一環としての位置づけもあり、広がりを見せつつあります。トップダウン・ボトムアップともに取り組んでこそ、企業文化として定着してきます。"Leave no one behind"（誰一人取り残さない）の達成、そのためのTransform（前例にとらわれず新たに作り変える）というSDGsの二つの理念達成は、当協会のミッションとも呼応しており、引き続き、未来を志向する事業を進めてまいります。

OUTSIDE-INで課題のリアルを知る

2016年度から、深刻化・複雑化する「子どもの『貧・困』問題」解決への“伴走者”を育成する事業を始めました。2017年度は、実態把握の後、伴走者としてできることを探るための研修を、現場での体験も交え行いましたが、企業と子どもの支援現場での価値観の違いに、「もやもやした割り切れなさ」を持ち続けた研修でした。このことは、従来の資本主義社会の弊害、民主主義の行き詰まりが言われる今日において、次のステージへのリセットに向けた葛藤の表れであり、こうした「もやもや」から逃げずに向き合うことが、SDGsの理念である「誰も取り残さない社会」づくりへの道程になることを実感しました。2017年度は、セミナーや機関誌においても、「取り残されがちな人たち」、例えば罪を犯した人たち、取り組みが遅れている精神障がい者をはじめ、生きにくさを抱えた人たちの実態に目を向ける機会を提供してきました。生身の人間の苦しみや困難を知り、俯瞰する力と寄り添う心を共に持ち合わせて、課題にしっかり向き合い、解決のためのコーディネーターを目指してまいります。

一人ひとりの社会参加をより促進する

フィランソロピーを民主主義の原点と捉える当協会では、青少年時代からの社会参加による市民意識醸成が肝要であると考え、小・中学校での寄付育を核に、シティズンシップ教育を推進しています。個人の寄付行動を顕彰する「まちかどのフィランソロピスト賞」は20回目を迎えました。同窓会としての寄付活動、趣味を生かしたファンドレイズ、誕生日に寄付をする、など未来につながる新たなヒントが目を見せました。子どもたちの募金活動も、自分自身が病気や虐待などで支援を受ける側の子どもたちが、同じような境遇の子どもたちのために力を尽くす姿に、むしろ私たちが背中を押されたように思いました。これを機に、一人ひとりの個人が活かされる、今後の民主主義の担い手づくり、就中、次世代育成に尽力してまいります。

課題解決に向け、一企業・一NPOを超えて協働することでより成果を出せるコレクティブ・フィランソロピーの推進のためのコーディネート役を果たしてまいります。

皆様のご意見・ご要望に耳を傾けながら、さらなる努力を重ねてまいります。

よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人日本フィランソロピー協会

理事長 高橋 陽子

はじめに

これまでのあゆみ

1960年 第一次安保闘争を機に、ジャーナリスト・学者などの有識者を中心に、不偏不党の立場で自由闊達な民主的社會を実現するため、「国民政治研究会」として勉強会を開始。

1963年 内閣総理大臣より公益法人としての認可を受ける。

1990年 **フィランソロピー元年**

★バブル経済へ続く1980年代後半には、欧米に進出した企業が現地企業の社会貢献活動に触発されるなか、企業フィランソロピーやメセナ等、企業の社会貢献活動が盛んになり、1990年には経済団体連合会の「1%クラブ」や「企業メセナ協議会」が発足、「フィランソロピー元年」と呼ばれた。

1991年 **「企業市民室」を創設し、フィランソロピー推進事業を開始**

フィランソロピーを民主主義の原点と据え、企業フィランソロピーを通じて、個人の社会参加推進につなげることを事業の柱として新たに出発。企業の担当者向けセミナーを開始

1992年 「月刊フィランソロピー」（現 機関誌「フィランソロピー」）創刊

1994年 **「日本フィランソロピー協会」に改称**

1995年 **阪神・淡路大震災発災・ボランティア元年**

★阪神・淡路大震災で、数多くのボランティアがその救済や復興のために活躍。特に、社会人や学生がボランティアとして参加し、行政よりも柔軟に対応、「ボランティア元年」と呼ばれた。
神戸市長田区区内小学校の避難所の運営

1998年 知的障害者のアートと暮らしをテーマにした記録映画「まひるの星」制作。「まちかどのフィランソロピスト賞」創設

2000年 視覚障がい者、高齢者などへの音訳サービス「声の花束」開始

2003年 **CSR元年**

★ナイキの児童労働問題、エンロン事件を象徴として、コーポレートガバナンス時代に入った。多くの企業で、CSR担当部署が整備された。

「企業フィランソロピー大賞」創設

2005年 「まちかどのフィランソロピスト賞」に青少年部門創設

2007年 「フィランソロピーバンク」創設。文化庁主催「アート展・障がいのある人たちの作品たち」開催

2009年 **新公益法人制度の下、公益社団法人として認定**

「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」開始

2010年 会員を中心とした勉強会「Stone Soup Club」発足

国際標準化機構がISO26000制定

2011年 **東日本大震災発災**

「寄付育（現 チャリティーチャレンジ・プログラム）」開始

「復興応援 キリン絆プロジェクト」開始

「チャリティー・リレーマラソン」開始

2013年 「フィランソロピーセミナー in 関西」開始

2014年 「サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業」開始

2015年 **国連が「持続可能な開発目標（SDGs）」制定**

「ボランティアウェブ」開始

私たちが

フィランソロピー活動の原点と考えるものとは

当協会では、「企業フィランソロピー」を中心に活動していますが、「個人フィランソロピー」を、健全な民主主義を創出するための原点と考えています。

そのため、企業のステークホルダーである一人ひとりの個人が、「より良い社会創造のために自ら考え、課題解決に向けて行動する」ことを推奨しています。

フィランソロピーとは

ギリシア語の「フィリア（愛）」と「アンソロpos（人類）」に由来する言葉で、「人類愛」「博愛」を意味し、今日的には「社会貢献」と訳されることが多いようです。また、フィランソロピーは、社会貢献活動を通して、社会の課題解決を図る、ということまでを包含する概念です。

フィランソロピー活動の主体は、本来は個人ですが、現在では企業の関わるフィランソロピー活動を企業フィランソロピーと言っています。

「健全な民主主義社会」の実現

障がいの有無・性別・年齢などに関係なく全ての人が、かけがえのない存在として尊重され、それぞれの役割を果たし、社会を構成する主体としての責任を果たす社会の実現

行政や企業セクターと協力しながらも独立した主体性を有する市民セクターを育て、バランスの取れた社会の実現

Mission
(使命)

Goal
(ミッション実現のための目標)

①企業のCSR支援

②個人の社会貢献活動の推進

主に企業のステークホルダー
～従業員・顧客・株主を中心に～

Core Value
(大切にしている視点)

共生社会づくり

社会貢献を核とした
企業のCSR支援

次世代育成

【主な活動】

寄付推進プログラム

従業員ボランティア推進プログラム

NPO 次世代リーダー育成プログラム
(アメリカン・エキスプレス・
リーダーシップ・アカデミー)

被災地支援

出版事業
機関誌『フィランソロピー』

研修事業
定例セミナー
各種セミナー

顕彰事業
まちかどのフィランソロピスト賞
企業フィランソロピー大賞

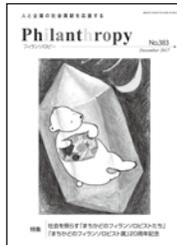
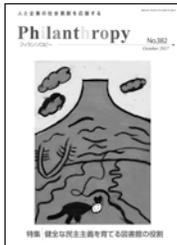
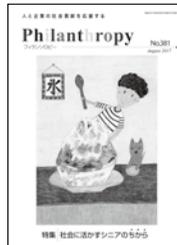
チャリティーチャレンジ・
プログラム

チャリティー・リレーマラソン
子どもの貧困対策プロジェクト

出版事業

フィランソロピーを拡げるために、各種の出版物や調査報告書などの発刊を通して啓発活動に努めています。2018年2月現在384号を数える機関誌「フィランソロピー」では、創刊以来、社会の課題を抽出し、特集として企画・編集。課題解決や新たな価値創造の実現に向けたさまざまな取り組み、企業フィランソロピー活動の先進事例や、個人・NPOの活動について紹介しています。

機関誌「フィランソロピー」(隔月発行)



<表紙について>

主に知的・精神障がいのある方の作品をご紹介しますことで、多彩な個性、自在な表現を感じていただければと、全国からアーティストを発掘。本誌表紙を通じ、多様な才能を世の中に紹介したいと活動を続けています。目次ページでは、作者のプロフィールや作品の背景なども掲載しています。

これらの図柄は、フィランソロピー名刺にも一部使われています。(詳細はp.23参照)

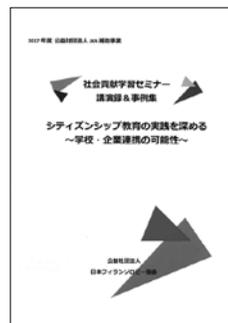
2017年度	特集テーマ／巻頭インタビュー・座談会のタイトル／登場いただいた方々
4月号 (No.379)	企業の社会貢献を牽引する社員の力 「組織の横糸を紡ぐ社員のボランティア活動」 東 和浩 氏 (株式会社りそなホールディングス 取締役兼代表執行役社長)
6月号 (No.380)	ディープエシカルのすすめ 「サバイバルをかけたエシカルとは」 山本 良一 氏 (日本エシカル推進協議会代表 会長)
8月号 (No.381)	社会に活かすシニアのちから 「世のため人のため、東奔西走する熟年の生きがい人生」 谷川 洋 氏 (認定特定非営利活動法人アジア教育友好協会 理事長)
10月号 (No.382)	健全な民主主義を育てる図書館の役割 「民主主義の砦としての図書館」 松岡 享子 氏 (公益財団法人東京子ども図書館 名誉理事長) 永井 伸和 氏 (株式会社今井書店グループ 代表取締役 会長)
12月号 (No.383)	社会を照らす「まちかどのフィランソロピストたち」 「一人ひとりの想いを巻き込んだ新しい寄付のかたち」 川野 幸夫 氏 (株式会社ヤオコー 代表取締役 会長) 高橋 陽介 氏 (日本オラル株式会社 オペレーション統括本部 ビジネスオペレーション本部 本部長)
2月号 (No.384)	女性の活躍 (114位の意味を考える) 「女性の活躍を社会に活かす」 木全ミツ氏 (認定NPO 法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に 会長・理事長)

(機関誌「フィランソロピー」の過去の発行内容は、資料編 p.26 をご参照ください)

出版物 / 冊子

「社会貢献学習セミナー」講演録&事例集 (2017年度 公益財団法人JKA補助事業) シティズンシップ教育の実践を深める～学校・企業連携の可能性～

チャリティーチャレンジ・プログラムでは、「学校と企業の連携」をテーマとしてセミナーを開催。学校と企業がともに地域の一員として未来を見据え、共通の目的を掲げて力を出し合い、カリキュラムを作っていくためには、まず互いを知り合うことが必要です。セミナーでは、さまざまな学校や企業の方々に参加いただき、出会いの場としました。その内容と事例を紹介しています。(詳細は p.20 参照)



スターティングノートⅢ (独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業) 「ひとと自分と地域をつなぐ」～子どもたちの「伴走者」になるために～

2016年度「スターティングノートⅠ(子どもの現実と支援者との関係)」、「スターティングノートⅡ(プロの支援者からのメッセージ)」に続き、2017年度は、研修記「スターティングノートⅢ」を作成。伴走者として、子ども自身に関わるだけでなく、子どもを取り巻く人たちが制度の課題に対して、専門家・専門団体の人たちのサポート役として、地域の人や組織をつなぎながら伴走する一般の人たちのためのガイドです。(詳細は p.22 参照)



第20回まちかどのフィランソロピスト賞 「歴代受賞者の皆様から～その後の活動・寄付への思い～」

まちかどのフィランソロピスト賞20周年を記念して、当日配布のパンフレットに、歴代の受賞者の皆様からその後の活動の様子や寄付への思いなどをご寄稿いただき、編集しました。



研修事業

フィランソロピーについて知り学ぶ機会として、毎月東京で開催している「定例セミナー」、大阪で開催している「フィランソロピーセミナー in 関西」、協会の会員企業の CSR・社会貢献担当者を主な対象とした学びと協働の場「Stone Soup Club」、2017年度からはじめた「CSR エグゼクティブセミナー」などを実施しています。

定例セミナー

1991年度にスタートした「定例セミナー」では、基本的に毎月、企業の CSR・社会貢献担当者だけでなく、NPO 職員やフィランソロピーに関心を持つ個人や学生を対象に、各分野の第一線で活躍されている学術研究者や先進事例を有する企業の担当者を講師に迎え、講演会を開催しています。フィランソロピーに関する理論や活動の現状を知り、問題意識を持ち、活動ノウハウを蓄積するだけでなく、講師や他の参加者とのネットワーキングの機会にもなっています。2017年度は、13回開催、のべ446名の方が参加しました。

実施回 (月)	テーマ
第 329 回 (4月)	CSR 基礎講座 I 『社員参加による社会貢献活動の推進』 ＜講師＞堀 久美子 氏 (UBS グループ コミュニティアフェアーズ エグゼクティブディレクター)
第 330 回 (4月)	CSR 基礎講座 II 『企業市民の原点から今後の CSR を考える』 ＜講師＞松岡 紀雄 氏 (神奈川大学名誉教授)
第 331 回 (5月)	CSR 基礎講座 III 『良心による企業統治 ～ 渋沢栄一の経営哲学からの示唆』 ＜講師＞田中 一弘 氏 (一橋大学大学院商学研究科 教授)
第 332 回 (6月)	CSR 基礎講座 IV 『社会貢献活動を立ち上げ、広めてきた経験からみる今後』 ＜講師＞山ノ川 実夏 氏 (三井住友海上火災保険株式会社 総務部 部長 地球環境・社会貢献室長)
第 333 回 (6月)	CSR 基礎講座 V 『CSR の最新トレンド～ SDGs 時代の企業責任』 ＜講師＞関 正雄 氏 (損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR 室シニアアドバイザー)
第 334 回 (7月)	『新時代における枠を超えた発想や生き方』 ＜講師＞國田 圭作 氏 (株式会社博報堂 行動デザイン研究所 所長)
第 335 回 (9月)	『社員参加を促すための知恵と工夫を聞く』 ＜講師＞山尾 ゆり 氏 (フィリップ モリス ジャパン合同会社)、安川 彩 氏 (三菱商事株式会社)
第 336 回 (10月)	『刑務所出所者等の社会復帰支援と企業への期待』 ＜講師＞大橋 哲 氏 (法務省 大臣官房審議官 (矯正局担当))
第 337 回 (11月)	『企業による教育支援の今後 ～ 出前講座を超えて～』 ＜講師＞竹元 賢治 氏 (インテル株式会社 インダストリー事業本部 教育事業開発推進担当部長)
第 338 回 (12月)	『「少年と自転車」映画鑑賞と対談～里親について考えるタベ～』 ＜対談＞坂本 洋子 氏 (東京都小規模住居型児童養育事業「坂本ファミリー」管理者、「里親ひろば ほいっぶ」グループ代表)
第 339 回 (1月)	『教育格差是正に取り組む企業と NPO の事例から、今後の課題を考える ～ 共に生きる未来へ向けて～』 ＜講師＞石井 真基 氏 (株式会社葵 (アオイゼミ) 代表取締役)、森山 誉恵 氏 (認定 NPO 法人 3keys 代表)
第 340 回 (2月)	『農福連携の最先端を学ぶ～ 企業・農業者・障がい者/高齢者等のパートナーシップで地域再生を～』 ＜講師＞濱田 健司 氏 (全国農福連携推進協議会 会長)
第 341 回 (3月)	『ESG 投資の最新動向～ SDGs 時代に評価されるサステナブルな企業になるために～』 ＜講師＞水口 剛 氏 (高崎経済大学 経済学部 教授)

フィランソロピーセミナー in 関西

地域版のセミナーとして、大阪で4回開催し、のべ91名の方が参加しました。

実施回(月)	テーマ
第25回(5月)	『良心による企業統治～渋沢栄一の経営哲学からの示唆～』 ＜講師＞田中 一弘氏（一橋大学大学院商学研究科 教授）
第26回(9月)	『誰も見捨てない社会とは～人権を守るために企業としてできること』 ＜講師＞勝部 麗子氏（社会福祉法人豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長）
第27回(12月)	『企業とNGOの協働・課題を共視するパートナーシップの在り方』 ＜講師＞鬼丸 昌也氏（特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事・創設者）
第28回(1月)	『企業による教育支援の今後 ～出前講座を超えて～』 ＜講師＞小林 征人氏（大和ハウス工業株式会社）、相良 有希子氏（阪急阪神ホールディングス株式会社）、乾 とし子氏（パナソニック株式会社）

Stone Soup Club

Stone Soup Clubは、会員企業のCSR・社会貢献担当者を中心の対象者とした、共に学び、考え、議論し、協働型の社会貢献活動を企画・実施するフォーラムです。座学だけでなく、グループディスカッション中心のワークショップや、体験会・見学会、また協働して実施する社会貢献プロジェクトなどがあります。

＜活動の紹介＞

SSCから生まれた企業横断型連携プロジェクトとして、NPO法人「地球の楽好」の協力のもと、社員の家庭で眠っている子ども向け絵本を寄贈する『被災地の子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト』を実施しました。2017年度は、25社・グループの参加により2,872冊を寄贈、5年間の累計寄贈冊数は17,570冊となりました。



絵本バスで届けた時の様子

経営者向け「CSR エグゼクティブセミナー」

世界的な自然環境の深刻な悪化など、企業をとりまく環境が激変する中、今後の企業経営はどうあるべきか。企業の更なるCSRの取り組みの進化や変化には、企業トップの理解と行動が不可欠であるという思いのもと、総合プロデューサーとして株式会社レスポンスアビリティの足立直樹氏の協力を得て、企業経営者向けに「CSR エグゼクティブセミナー」を4回シリーズで初開講しました。のべ8社の様々な業種・地域・規模の企業の役員にご参加頂き、第一線の講師とともに深い議論を交わしました。

実施回(月)	テーマ
第1回(9月)	『SDGs時代のサステナブルビジネスを考える』 ＜講師＞足立 直樹氏（株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役）
第2回(11月)	『戦略的人材育成で、強くて優しい会社を創る』 ＜講師＞スコット デイヴィス氏（立教大学 経営学部 教授）
第3回(1月)	『企業の視点とビジネスモデルで地方は創生できる』 ＜講師＞古田 秘馬氏（株式会社 umari 代表/プロジェクトデザイナー）
第4回(3月)	『ダイバーシティと人権から今後のCSR経営の本質を考える』 ＜講師＞村木 厚子氏（元 厚生労働事務次官）



議論の様子

顕彰事業

顕彰事業では、社会への貢献や社会の課題解決を目指す個人や企業による活動に光を当て、その思いやエピソードを広く紹介することで、寄付文化や社会貢献文化の醸成を目指しています。まちかどのフィランソロピスト賞は2017年度で20周年を迎えました。

企業フィランソロピー大賞

2003年に創設した「企業フィランソロピー大賞」では、社会課題のために、自社の経営資源（人材・ノウハウ・技術・情報など）を有機的・持続的に活用した企業の社会貢献活動を顕彰しています。そうした企業を広く社会に発信することにより、公正で温もりと活力ある社会を次世代に伝える一助としたいと考えています。

第15回企業フィランソロピー大賞は以下の通り決定し、2018年2月27日、東京都千代田区のプレスセンターホールにて贈呈式を開催しました。



プレスセンターで行われた贈呈式



武田選考委員長による講評

<企業フィランソロピー大賞>

アサヒグループホールディングス株式会社

「アサヒ KIDS プロジェクト」

<企業フィランソロピー賞>

【はたらく幸せ賞】合同会社西友

「若者就労・応援パッケージ『西友バック』」

【とびたて若者賞】セリエコーポレーション

「帰住先のない若者の自立支援」

【地域の未来創生賞】全国信用協同組合連合会

「『しんくみピーターパンカード』を通じた寄付活動」

【地球を守る緑のカーテン賞】日立化成株式会社

「日立化成グリーンカーテンプロジェクト」

<選考委員>

委員長 武田 晴人 氏（東京大学 名誉教授）

委員 岩田 喜美枝 氏（公益財団法人21世紀職業財団 会長）

// 佐藤 雄二郎 氏（株式会社共同通信社 代表取締役社長）

// 渋澤 健 氏（commons投信株式会社 取締役会長）

まちかどのフィランソロピスト賞

寄付活動はボランティア活動に並ぶ社会貢献活動の両輪です。1998年度に創設した「まちかどのフィランソロピスト賞」では、日本における「寄付文化の醸成」を目的として、社会のために私財を投じた「個人」を顕彰しています。2005年度に「青少年部門」を設け、2010年度からは文部科学省の後援のもと「青少年フィランソロピスト賞」として内容を拡充し、次世代を担う子どもたちの寄付活動を推奨しています。

第20回まちかどのフィランソロピスト賞は、2017年12月12日、東京都千代田区の学士会館にて贈呈式を開催しました。

一般部門

『まちかどのフィランソロピスト賞』

川野 幸夫 氏

スーパーマーケット大手の株式会社ヤオコーの創業者会長。埼玉県立浦和高等学校の卒業生。「公益財団法人県立浦和高等学校同窓会奨学財団」設立の際、発起人として自身が所有するヤオコー株式26万株（時価総額14億円以上）を寄付。



学士会館で行われた贈呈式

高橋 陽介 氏

児童養護施設の子どもたちを支えるNPOへの寄付を目的に趣味のサイクリングでチャリティを開始。走る距離に応じてドナーを募集。2017年は118人が走り、寄付金は500万円を超えた。

『特別賞』

川淵 三郎 氏

「サッカーを通じてスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という百年構想の実現には日本に寄付文化を広げなければならないと、誕生日に寄付を続け、累計1,500万円。

青少年部門『青少年フィランソロピスト賞』

《文部科学大臣賞》

福津市立福間中学校（福岡県福津市）

地域の一人暮らしのお年寄りに手作りの年賀状を送る「福招き年賀状大作戦」を実施。

《西武信用金庫賞》

武蔵村山市立第八小学校（東京都武蔵村山市）

ラオスの子どもたちのために学校建設費用を集める寄付活動を実施。

《奨励賞》

宮城県志津川高等学校（宮城県南三陸町）

北海道帯広養護学校（北海道帯広市）

榮島 四郎 様（小学4年生 横浜市在住）

杉澤 真生 様（高校3年生 熊本市在住）

乳井 丈弥 様（高校1年生 神奈川県座間市在住）

※贈呈理由は当協会ウェブサイトをご覧ください。

＜選考委員＞

委員長 出口 正之 氏

（国立民族学博物館 民族文化研究部 教授）

委員 落合 寛司 氏（西武信用金庫 理事長）

// 河崎 保徳 氏（ロート製薬株式会社）

// 小林 征人 氏（大和ハウス工業株式会社）

// 二宮 かおる 氏（カルビー株式会社）

企業の CSR 支援 事業

CSR 支援事業では、企業の社会貢献活動の実施支援を行っています。社会貢献プログラムの企画立案や事務局代行だけでなく、従業員ボランティアプログラムの活動先とのマッチングや、寄付や助成プログラムにおける NPO などの支援先の調査選定・マッチングを行っています。企業、および、従業員など個人のフィランソロピー文化の醸成のため、支援先との顔の見える関係づくりを心がけています。

従業員ボランティア推進プログラム

企業の従業員の社会参加促進のため、会員企業をはじめとする企業の従業員ボランティアのプログラム企画開発や、受け入れ団体の紹介および調整、事前・事後研修、運営協力等を行っています。2017 年度には、のべ 16 社のボランティアプログラムの開催をサポートしました。

個別企業向けコーディネート

<アクセンチュア株式会社>

コーポレート・シチズンシップ（企業市民活動）として、Skills to Succeed（スキルによる発展）と呼ぶグローバル統一のテーマのもと、「人材スキルの向上」に関わるさまざまな活動を推進しています。その一環で、幅広い社員が短時間で気軽に参加できるボランティアプログラムを年 26 回企画運営しました。

<MSD 株式会社>

「患者家族支援」、「高齢者支援」、「環境保全・地域清掃」、「被災地支援」の分野で、従業員が気軽に参加できるボランティアプログラムを、年間で計画を立てて実施しています。

2017 年度は、保健医療に関係した新規ボランティアプログラムとして、「間伐材を活用した人体パズル」の製作を東京と埼玉で 2 回開催しました。

<株式会社オリエントコーポレーション>

4 月に「プレミアム・フライデー」推進のため、福祉作業所の菓子販売ボランティアプログラム実施を支援しました。7 月には、埼玉県の事業所にて国際協力ボランティアプログラムを開催しました。

<株式会社かんぽ生命保険>

年に 2 回、会議室ボランティアを実施。2017 年度 1 回目は 8 月に木の積み木づくり、2 回目は 2018 年 1 月に知育パズルづくりを実施し、出来上がったおもちゃは、それぞれ福島県いわき市の幼稚園、品川区の保育園へ寄贈されました。

<新日鉄住金エンジニアリング株式会社>

2017 年度は、初めての支店開催として、北九州支社のプログラムを現地 NPO と連携して開催。本社では 3 回開催しました。

<積水化学工業株式会社>

社会貢献プログラム『Heart+Action』：東京本社の呼びかけで、全国にある工場や子会社等单位でのボランティアプログラムを実施しました。

<大日本印刷株式会社>

従業員の被災地ボランティアプログラムの企画および実施を支援。2017 年度は、7 月と 10 月に石巻で実施。11 月には熊本県南阿蘇村立野地区で活動を実施しました。

<フィリップス・ジャパン株式会社>

1 月に日本支社のマネジメントチームが研修の一部として、木の玩具づくりボランティアを実施し、病院に寄贈しました。

<プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社>

10 月、地域農園支援ボランティアを実施しました。世界で毎年 10 月に実施される「グローバル・ボランティア・デー」に合わせて企画しました。

<リシュモンジャパン株式会社>

海岸清掃ボランティアプログラムを 2017 年 7 月に実施しました。

当協会独自のボランティアマッチングサイト（ボランティアウェブ）

他社の従業員との協働の機会の提供を目的に、様々なボランティア募集の情報をウェブサイト上で提供しています。利用企業の従業員の方々はウェブサイトから全国の主要都市で実施される様々な分野のボランティアプログラムを選び、直接参加申し込みができます。複数企業の参加があり、他社の従業員とのコミュニケーションの機会にもなっています。

<株式会社 NTT ドコモ>

2017 年度は利用地域の東京、大阪、福岡に加え、7 月より札幌、名古屋を追加しました。

<サントリーホールディングス株式会社>

2017 年 3 月より、社内の「働き方改革」の一環で、「ボランティアウェブ」の利用を開始しました。2018 年 1 月にボランティア休暇制度を拡充し、従業員のボランティア参加を促進しています。

<株式会社ジェーシービー>

『JCB 社会貢献プログラム』として、年に一度、何かボランティア活動を行おうと、全従業員を対象として、年間を通じて多くの業務時間中のボランティアプログラムに参加いただいています。「ボランティアウェブ」の利用や社内プログラム・持ち帰りプログラムなど、年間 100 以上のプログラムを提供・紹介しています。

<日本ロレアル株式会社>

2017 年 6 月の 1 ヶ月のみの期間限定利用。全世界でのボランティア強化月間のプログラムの受入先調整および申込受付業務を受託。500 名以上のプログラムを「ボランティアウェブ」を通じて募集しました。



Citizen Day (公園ベンチペンキ塗り)

<リシュモン ジャパン株式会社>

2017 年 7 月 15 日～8 月 15 日、期間限定で利用。同社で初めてのボランティア月間を設定しました。

<阪急阪神ホールディングス株式会社>

2017 年 4 月 15 日～6 月 15 日、期間限定で利用し、参加者の募集を行いました。

3 社合同ボランティアプログラム

ボランティアウェブの利用促進を目的として、通年利用企業 3 社（株式会社 NTT ドコモ、サントリーホールディングス株式会社、株式会社ジェーシービー）の従業員を対象とした「3 社合同ボランティアプログラム」を実施し、各社から合計 26 名が参加しました。東京都あきる野市にある東京地球農園(テラ・ファーム)にて農作業を行いました。



3 社合同での作業後の交流会

【ボランティアウェブ利用企業からの声】

サントリーホールディングス株式会社 コーポレートサステナビリティ推進本部 CSR 推進部
課長 横谷 正博 様 (右) / 荻原 さや 様 (左)

当社では、社員がボランティアに参加するきっかけづくりや場の提供を目的として、ボランティアウェブを活用しています。地域や分野さまざまプログラムを豊富にご用意いただいております。社員からも「一覧できるので見やすく、どんな活動があるか分かりやすかった」と声があがっています。



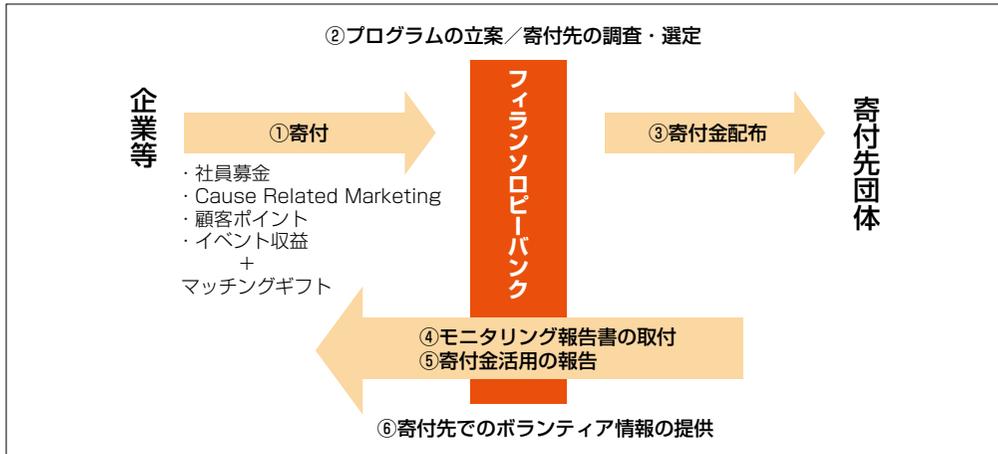
寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）

企業や個人の寄付を NPO 等の非営利団体につなげたり、個人への奨学金として給付しています。

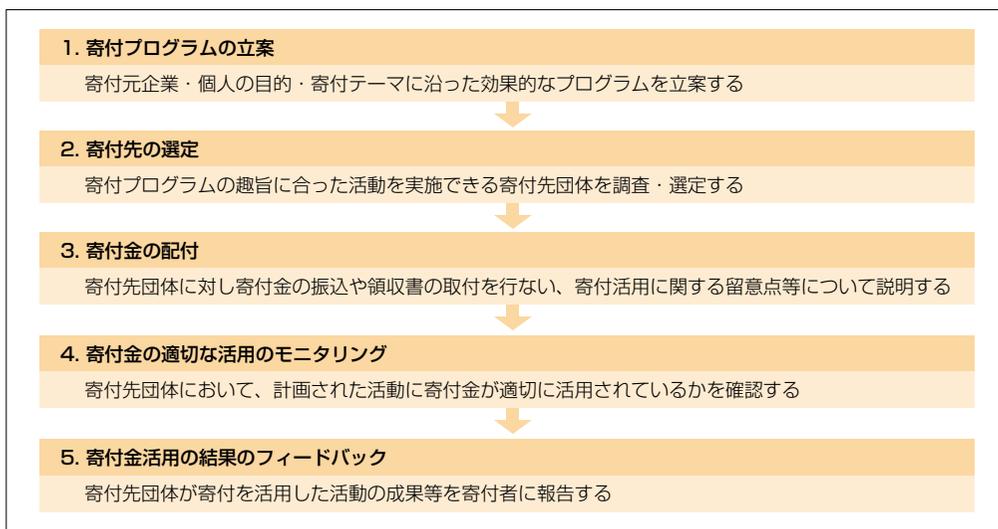
非営利団体への寄付

2017 年度には、12 社、1 個人がフィランソロピーバンクを利用し、のべ 122 の非営利団体に総額 125,189,583 円の寄付をつなぎました。（寄付先のリストについては、資料編 p.28～29 をご参照ください）

<フィランソロピーバンクの仕組み>



<フィランソロピーバンクのプロセス>



【フィランソロピーバンク利用企業の声】

株式会社三井住友銀行 経営企画部 CSR 室 室長 末廣 孝信 様

2011 年よりフィランソロピーバンクを通じて、弊行有志役職員の積立募金を全国の NPO 団体へ寄付しています。本当に支援が必要な団体宛に寄付を届けられるこの仕組みでは、客観的な寄付先の選定、寄付先審査会での公正中立な立場での助言に加え、寄付団体からの喜びの声を届けてくださるので、毎年お願いしています。



＜ 2017 年度フィランソロピーバンク活用実績（NPO への寄付、五十音順） ＞

社名	内容
アメリカン・エクスプレス ・インターナショナル Inc	熊本地震の被災者支援、ギフトカードの売上げに応じ寄付。
株式会社 NTT データ	社内チャリティイベントで集まった寄付金を、障がい者と IT という 2 つの分野で活動する NPO3 団体に寄付。
株式会社かんぼ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで環境分野の NPO 32 団体に寄付。
株式会社ジェーシービー	被災地復興支援の取組みとして実施。2017 年度は寄付先 19 団体に寄付。
東京海上日動あんしん生命保険株式会社	社員の給与天引き、代理店でのグッズ販売の一部を難病患児支援団体、認知症啓発団体に寄付。
東洋ゴム工業株式会社	環境基金の内、一部の寄付を当協会が支援。環境問題に携わる NPO 5 団体に寄付。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算したものと、従業員からの寄付を合わせ、東日本大震災被災者支援団体と全国 10 ヶ所の重度心身障がい者施設に寄付。
Fidelity International Foundation	NPO の基盤整備を目的として 2 団体に寄付。
株式会社みずほフィナンシャルグループ	社員による寄付プログラムで、様々な分野で社会課題の解決に取り組む NPO 5 団体に寄付。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付プログラムで、コミュニティ・次世代・環境の分野で活動する 20 団体、および社員がボランティアをしている 12 団体に寄付。
明治安田生命保険相互会社	チャリティー・コンサートの会場で集めた募金を、東北 3 県で「次世代育成」の分野で活動する 6 団体に寄付。 社会貢献活動基金を通じて、障がい者・高齢者支援および LGBT 支援を行う 8 団体に寄付。
株式会社ゆうちょ銀行	無通帳型総合口座の口座数に応じ寄付金を拠出するプログラムで、環境分野で住民と共に課題解決に向けた活動をする NPO13 団体に寄付。
個人 1 名	子ども支援団体に寄付。

（寄付先の詳細は、資料編 p.28 ～ 29 を参照）

個人への支援（奨学金プログラム）

東京海上日動あんしん生命保険株式会社

2016 年度から、東京海上日動あんしん生命保険株式会社による「東京海上日動あんしん生命 奨学金制度」および「東京海上日動あんしん生命 幼児教育支援制度」の実施を支援しています。奨学金制度は、疾病により保護者を失い、大学等への進学に経済的支援を必要とする 50 名に年間 30 万円を支給する給付型の奨学金制度です。幼児教育支援制度は、未就学の遺児および一定の年齢の子どもで養育に経済的支援を必要とする 100 名に、株式会社ベネッセコーポレーションの「こどもちゃれんじ」を一定期間、無償で提供する制度です。当協会では、この公募、審査、給付金の配布、を含む運営を支援しています。

物品寄贈「あげます・もらいます」事業

会員企業から引越し・事業の変更等々で使うことがなくなった物品などをご提供を受け、必要とする NPO へ橋渡しする「あげます・もらいます」事業を行っています。2017 年度は、9 社からの提供品をのべ 43 団体につなぎました。

< 2017 年度寄贈企業と物品一覧 >

企業 (50 音順)	寄贈物品
シティグループ	中古文具
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	ビジネスバッグ、ノベルティグッズ、事務用品、デジタルカメラ
大和ハウス工業株式会社	クレヨン
日本オラクル株式会社	ノベルティグッズ
三菱地所株式会社	電気ポット
三菱重工業株式会社	テレホンカード、形状記憶食器

(注：記載の許可を頂いた企業のみ)

助成事業

田辺三菱製薬株式会社

「手のひらパートナープログラム」は 2017 年度に 6 期目を迎え、330 の特定疾患を対象に公募。難病患者団体およびその支援団体に対し、通常助成（100 万円）・少額助成（30 万円）合計 21 団体に総額 1,000 万円を助成しました。助成プログラムの設計・公募・審査を含む運営を支援しています。

日本たばこ産業株式会社

地域コミュニティの再生と活性化に取り組む NPO を支援する「JT NPO 助成事業」の 2018 年度助成の第一次審査を支援。2018 年度は、全国 243 件の応募の中から、50 件の事業に助成を行っています。

次世代育成

敷島製パン株式会社

2017 年 6 月、「国産小麦ゆめちから栽培研究プログラム」の一環で、大阪豊中工場見学が行われ、当協会が食料自給率を考えるワークショップを企画・ファシリテートしました。光泉中学校・高等学校、開智中学校・高等学校、清風中学校・高等学校の生徒が参加しました。



国産小麦ゆめちから栽培研究プログラムワークショップの様子

日本製紙株式会社

2017 年 9 月、日本製紙株式会社が群馬県の菅沼社有林で小学生親子を対象に行う環境教育プログラム「森と紙のなかよし学校」の実施に際し、告知、当日の引率、フィードバックの受領などの面で、運営協力をしました。合計で 25 家族 58 名の親子が参加しました。



森と紙のなかよし学校の様子

高齢者支援

王子ネピア株式会社

業務用大人オムツ等の売上の一部による支援で、全国の介護施設において、全日本おむつ団と称する東西 10 名の落語家による演芸会「ボランティア演芸会」を開催。当協会はその実施をサポートし、2017 年度は 80 回開催しました。



全日本おむつ団による公演

環境保全

東京ガス株式会社

同社が2017年度より実施する、森、里山、海、をつなぐ環境社会貢献活動「森里海つなぐプロジェクト」全体の実施支援をしています。有識者を含む運営委員会を設置し、審議をしながらプロジェクトを推進。2017年度は、森林保全に取り組む行政や森林組合への支援に加えて、東京湾のアマモ場の再生や都内の保全林における里山保全活動に、グループ社員とその家族のべ208名が参加して貢献活動を実施しました。また、活動に賛同した顧客のポイント寄付による参加を得て、地域で環境保全活動をする団体を支援しました。



アマモ場の再生活動

NPO の次世代リーダー育成

アメリカン・エクスプレス財団の助成を受けて「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー～NPOリーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～」を実施。卒業生は第10期で累計341名になりました。

<概要>

総合監修:

米倉 誠一郎 氏 (法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授/一橋大学 イノベーション研究センター 特任教授)

アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー:

- ・第9期:2017年2月(東京開催)・5月(福岡開催)
- ・第10期:2018年2月(東京開催)・5月(福岡開催)

フォローアップ・セッション:

- ・アカデミー実施後、参加者が学びを持ち帰り、現場で活用した後に再び参集して学びを深めるセッション。10期も開催予定。
- ・第9期:2017年9月(東京開催)・12月(福岡開催)

<カリキュラムの構成と狙い>



社員研修

東京海上日動火災保険株式会社

5月に、同社のグローバルコース採用新入社員200名に対する新人研修の一環として、岩手県陸前高田市と宮城県石巻市にて被災地の現状を知りながら、農業、漁業等のボランティアに従事するプログラムを、企画・実施しました。

東日本大震災の被災地支援

復興応援 キリン絆プロジェクト

キリングループが東日本大震災の復興支援として2011年から取り組んできた「復興応援 キリン絆プロジェクト」において、当協会は農業支援をサポートしてきました。助成事業においては、2017年度には福島県の4つのプロジェクトが成果報告会を実施。助成事業と平行して2013年から取り組んできた農業の次世代リーダー育成「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」は、その知見を活かして始まった「地域創生トレーニングセンタープロジェクト」と連携しながら実施しました。

東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業

サントリーホールディングス株式会社の東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として2014年9月から、チャレンジド・アスリートの支援を当協会とともに実施しています。東北3県（岩手・宮城・福島）を対象に実施し、各県の行政担当者や障がい者スポーツ協会からのニーズの把握や、アスリートや競技団体とのネットワーク構築を当協会が担い、各プロジェクトの発展に努めています。

プログラム	内容
チャレンジド・アスリート奨励金	2017年度は、公募ののち、団体23団体、個人49名に、奨励金を給付しました。
チャレンジド・スポーツアカデミー	障がい者スポーツに対する理解を深めるため「アスリート・ビジット」として、チャレンジド・アスリートなどが3県の学校を訪問し、子どもたちに対する講演や競技体験会などを7回実施しました。学校ではない一般向けにも「チャレンジド・スポーツ体験教室」を福島県で実施しました。
チャレンジド・スポーツ育成サポート	障がい者スポーツ育成のため、車椅子スポーツ導入教室を各県で実施し、障がい者スポーツのすそ野拡大に向けた講座を実施しました。



体験教室の様子



車いすの体験の様子

次世代育成 事業

将来を担う子どもたちを対象に、寄付・募金活動を核とした社会貢献活動を推進し、自己肯定感の獲得、思いやりの心の醸成、事業成果の検証などを通し、人間としての成長支援、コミュニティへの参画意識の向上などととも、寄付文化の醸成を目指します。

チャリティーチャレンジ・プログラム

募金・寄付を核とした社会貢献学習「チャリティーチャレンジ・プログラム」は、子どもたちが解決したい課題を話し合い、募金活動をして、社会に役立つ寄付をする社会貢献学習プログラムです。「募金・寄付」活動を通して地域社会を見つめ、さまざまな人とかかわる中で、自己肯定感を高め、実社会での「生きる力」を育みます。

2017年度は、公益財団法人 JKA の助成を受けて、「企業と学校の連携」をテーマとした以下の事業を行いました。

- (1) 推進委員会の開催
- (2) 中学校でのプログラム実施支援
杉並区立杉並和泉学園
墨田区立両国中学校
福岡県福津市立福間中学校
熊本県高森町立高森中学校
- (3) 「企業による教育支援」をテーマとしたセミナーの開催
(2017年11月、2018年1月、2月)
- (4) 報告会「シティズンシップ教育の実践を深める
～学校・企業連携の可能性～」の開催(2018年3月)
- (5) 各校の事例やセミナー・報告会の講演内容を掲載した報告書の作成
『社会貢献学習セミナー 講演録&事例集
シティズンシップ教育の実践を深める～学校・企業連携の可能性～』



募金活動



報告会の様子

<推進委員>

- 唐木 清志 氏 (筑波大学 人間系 教授)
藤木 正史 氏 (東京学芸大学 附属国際中等教育学校 教諭)
横田 宗 氏 (特定非利活動法人 ACTION 代表)

【プログラムに参加した生徒からの声】

「今回の貴重な体験を通して、私のような中学生でも募金という小さな活動だけで、世界や社会に貢献できるのだということを知りました。これからもぜひ、今回のような募金活動に積極的に関わっていきたいです」(杉並区立杉並和泉学園 9年生)

「初めて募金活動を行ない、一つ一つの活動が新鮮で大きく成長することができたと感じた。成長した力の一つは、コミュニケーション。また、何かを成し遂げるためには、協力することが大切だということを知った」(高森町立高森中学校 3年生)

チャリティー・リレーマラソン

2011年度から始まった「チャリティー・リレーマラソン」は、中学生による被災地の復興支援活動。6回目となる2017年度は、東北から4校、熊本から3校、東京から7校が参加しました。

5月には、自分たちで被災地の現状と課題を考え、7月のマラソンイベントの前には東北・熊本・東京参加校生徒による合同募金を実施。企業募金やクラウドファンディング等の合計は約340万円となり、東北・熊本の各校に49万円ずつ配布しました。夏休み中には、東北被災地（岩手県陸前高田市・大船渡市・釜石市）および熊本被災地を東京参加校の生徒が訪問。11月には東北・熊本各校の使途の発表を行う報告会を開催しました。

<プログラム全体の流れ>



熟議



東京各地での合同募金



伴走など多くの企業ボランティアが生徒を見守った

参加校

【東北4校】

- ・岩手県大船渡市立日頃市中学校
- ・宮城県大崎市立古川中学校
- ・東北学院中学校
- ・福島県いわき市立平第三中学校

【東京7校】

- ・中央区立銀座中学校
- ・墨田区立両国中学校
- ・江東区立有明中学校
- ・東京学芸大学附属国際中等教育学校
- ・足立区立栗島中学校
- ・江東区立深川第二中学校
- ・八王子市立四谷中学校（募金のみ）

【熊本3校】

- ・高森町立高森中学校
- ・高森町立高森東学園義務教育学校
- ・御船町立御船中学校

特別協賛：新日本有限責任監査法人

協賛：アサヒグループホールディングス株式会社、MSD株式会社、クラシエホールディングス株式会社、株式会社ジェーシービー、トヨタ自動車株式会社、華為技術日本株式会社、三菱地所株式会社

特別協力：パナソニック株式会社

（Tシャツ提供：東洋アルミニウム株式会社）



マラソン後の記念撮影。中学生、企業ボランティア総勢約200名

子どもの貧困 対策プロジェクト（助成：独立行政法人福祉医療機構）

企業で働く社会人にとって、自分が子どもの貧困という社会課題に向き合い、支援していくには何が必要なのかについて、実体験と座学を通して考えるプログラムを実施しました。

研修プログラム

子ども支援にコミットしていきたいと考えている企業人を対象に、子どもと直に触れ合う経験を通して、現場の課題と自身のリソースを整理しながら、これから自分が何をすべきか、じっくり考える研修プログラムを行いました。座学での学習と現場でのリアルな体験を織り込んだ全5回で構成。



	開催月	内容
第1回	2017年12月	座学1 「自分の力をどのように支援の現場に活かすか」
第2回	5箇所分散して実施	現場体験・子ども食堂編 「見る・触れあう・学ぶ・考える」
第3回	2018年1月	座学2 「支援の現場に求められるスキルとは」
第4回	5箇所分散して実施	現場体験・発展編 「子ども食堂支援者との意見交換」
第5回	2018年2月	座学・まとめ 「子ども支援に必要なニーズと、企業人として出来ること」

【研修受講者の声】

- 「実際の支援の現場に行く、ということは非常に有効であった」
- 「支援の必要性や支援方法を学ぶことができた」
- 「福祉の現場での“効果を求めすぎない緩やかなつながり”をどのように企業にフィードバックしていくか、という観点で課題を感じた」
- 「この活動をどう自分の企業での活動につなげていくか、明確な回答が持てなかった」

シンポジウム

研修に参加した受講生の活動報告会を通して、子どもの貧困に関心を持ち、自分事として活動を開始しようとする大人の数を増やすことを目的として開催。



シンポジウムの様子

スターティングノートⅢ作成

活動に参加した受講生や企画した講師が手探りで学んだことを研修記として、子どもの貧困の支援、伴走者として活動を行う方々へのガイドを作成。（詳細はp.7参照）

<本プロジェクトの企画検討のためにご参加いただいた委員>（五十音順）

- 相川 良子 氏（特定非営利活動法人ピアサポートネットしづや 理事長）
- 田中 康之 氏（株式会社リンクアンドモチベーション フェロー）
- 前野 隆司 氏（慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授）
- 松田 雄年 氏（社会福祉法人東京家庭学校 校長）
- 横田 宗 氏（特定非営利活動法人アクション 代表）

共生社会づくり 推進事業

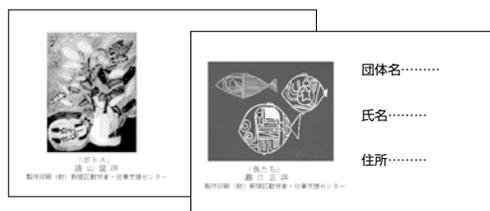
一人ひとりの社会参加が健全な民主主義の原点になると考え、企業フィランソロピー事業においても従業員など企業のステークホルダーの社会参加・社会貢献の推進を心がけています。

一人ひとりの市民が社会を創る一員として、主体的に社会参加・社会貢献をするフィランソロピー社会の実現を目指して、今後も個人フィランソロピーの推進をしていきます。

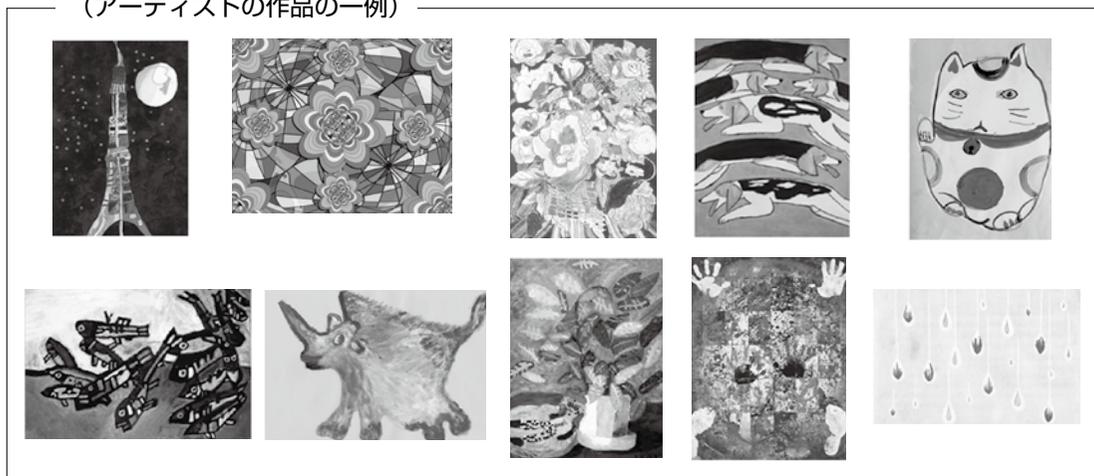
フィランソロピー名刺

個人としても参加できる社会貢献として、「フィランソロピー名刺プロジェクト」に取り組んでいます。障がいや難病などハンディキャップのあるアーティストの作品を利用した名刺を制作・販売し、名刺の受注で得た収益を、アーティストや所属団体に還元。名刺の印刷も福祉作業施設に委託し、プロジェクト全体で障がい者の可能性と魅力を示しつつ、経済的自立の支援につなげています。

2017年度末 アーティストの作品数：112作品
2017年度 制作件数：348件（1件／100枚）



(アーティストの作品の一例)



【利用者の声】

株式会社ハイパーギア 代表取締役 本田 克己 様

フィランソロピー名刺は、当社全員で利用させていただいています。結構インパクトのある絵柄や色合いが多いので、初対面の方に渡すとそれだけで驚かれて会話が始められます。ただのロゴやデザインではなく、作家名や施設名もわかり、こういう形で少しでも継続的に社会にお役にたきたいという気持ちが相手に伝わります。営業担当や技術担当も本人が選んだ別の絵柄を利用しており、楽しみにいろいろ名刺を集められるお客様もいます。また事務のスタッフや内勤のスタッフなど、名刺をあまり使わない社員も作成していて、友人や同期会などで利用して盛り上がるようです。うれしいですね。

◆ 注文方法

協会ウェブサイトの「作品カタログ」から作品をお選びいただきお申込みください。
<http://www.philanthropy.or.jp/meishi/>

寄付川柳

2017年11月から2018年1月にかけて、日本社会に寄付文化を醸成することを目的に、「第二回寄付川柳」を募集しました。今回は、東北・熊本地震の復興支援活動につながる寄付つき参加としたところ、「誰かを助けたい」「社会をより良くしたい」との温かな気持ちとともに「寄付」にまつわるやさしさとユーモアにあふれる川柳366句が、最年少6歳から最高齢90歳までの211名から寄せられました。

第一次選考として当協会職員5名が約100句を選出。川柳作家の水野タケシ氏を有識者としてお招きした最終選考会にて、受賞作10作品を決定しました。

受賞作		受賞者
最優秀賞	異国の地寄付の服着て子ら駆ける	光ターン (74歳)
優秀賞	ばあちゃんは 素通りできぬ 人でした	入り江 わに (54歳)
優秀賞	小銭たち レジのとなりで 人助け	ほな (7歳)
佳作	ヒフミンに あやかりキフミン 国民的に	ときめきき (61歳)
佳作	兄を見てお金を入れた子の笑顔	永野 暖佳 (16歳)
佳作	あの世には持って行けぬと寄付をする	松本 みよ子 (72歳)
佳作	かけ声で止まってくれるあたたかさ	穴見 茉音 (13歳)
佳作	既読スルー できず立ち寄る 募金箱	ハ口リアル (18歳)
佳作	1円の 募金で世界は 救われる	佐藤 友月 (15歳)
佳作	自己満足 かもしれぬけど いいですか	石倉 久子 (41歳)

【最優秀賞受賞者の声】

神奈川県秦野市 雅号：光ターン 様

最優秀賞に選んでいただき、大変うれしく思います。ありがとうございます。寄付川柳を作ることで、いろいろ考えるきっかけを与えていただきましたこと、感謝しています。これからも災害に遭われた方々、遠い異国の空の下、戦禍を逃れながら暮らしている方々などへの想いを、心の片隅に抱きながら生きていこうと心しています。



【選考委員 川柳作家 水野 タケシ 氏】

2回目となる寄付川柳は、幅広い世代から、さまざまな発想の作品が届きました。特に中学生や高校生からたくさんの秀作が届きました。日本の未来は明るいですね。最優秀賞は「寄付で世界とつながる」というコンセプトを見事に作品化しました。まず、「異国の地」という入り方で「おっ!？」と引き込まれます。そして、この臨場感と躍動感。子供たちの笑い声まで聴こえてきます。第3回の寄付川柳も今から楽しみにしています。

日本フィランソロピー協会へのメッセージ

長年にわたり当協会の様々な事業にご支援・ご協力頂いている方々からメッセージを頂きました。

株式会社ルート・アンド・パートナーズ 代表取締役社長 増淵 達也 様

光陰矢の如しとはよくいったものでフィランソロピー誌で連載をはじめてはや10年が経ちます。この間に起こったリーマンショックや東日本大震災のような世の荒波にはいつもつらい思いを強いられますが、一方で、当社が事業推進している富裕層ビジネスとフィランソロピーの考え方に大きな、そして、永続的な接点があることにも気が付かされます。ビジネスもフィランソロピーも、その始まりは愛情をもって人に接することができるか否か、という「本当は誰にでもできるけれど誰もがやっているわけではないこと」に帰結するからです。そして「愛情」のあるところに「運」、「縁」、「恩」が存在する、

ということで、「愛、運、縁、恩、あいうえお」という副題をつけさせていただきました。難しく考えすぎないことを自他共に諭す意味合いも大きかったように思いますし、その理念は1ミリも変わっておりません。難しい言葉よりもあいうえおから。微分積分よりも足し算から。これからはフィランソロピー協会には「誰でもできるけど誰もがやっているわけではないこと」を「誰にもできないくらいやる」ことを期待して止みません。



株式会社教育と探求社 代表取締役社長 宮地 勳司 様

私たち教育と探求社が、日本フィランソロピー協会と協働させていただくようになってから早10年が過ぎました。「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」という取り組みで、全国のNPOの次世代リーダーに学びと成長の機会を提供してきました。二泊三日の合宿形式で行うこのプログラムは、深く濃く、自らの生き方・在り方を考えるところから立ち上がり、未来へのビジョン、企画提案力、リーダーシップをグループダイナミクスの中から学んでいきます。個人の変革は、組織の

変革をもたらし、組織の変革が社会の変革をもたらすという信念に基づいた実践からは、多くのチェンジメイカーや新たなソーシャルビジネスが生まれ、卒業生はすでに300人を超えました。21世紀が平和と真の民主主義の世紀となるのなら、それは人間の意識の成熟によってなされるのだと私は考えています。その意味で、協会の成長と発展に多くを期待しています。



プロジェクト・コーディネーター／

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 特任准教授 若林 朋子 様

2014年から2年間、『機関誌フィランソロピー』の編集を担当しました。毎号の取材で、こんなにも多様で真摯な取り組みが全国にあるのかと、実践者の言葉に心動かされました。日本フィランソロピー協会は、小さくとも思いのこもった、個人、NPO、企業の社会活動を丁寧に掬い上げ、われわれに共有してくれる「窓」のような存在です。人ってすごいな、こうした活動が生まれてくる社会も捨てたものではないと希望をもてます。毎月2回配信される協会の

メールマガジンは、豊富な情報に加え、スタッフが交代で綴る冒頭のエッセイが毎度の楽しみです。こういう皆さんが切り盛りする団体なのだと思しき親しみがわき、信頼が増します。スタッフ1人ひとりの顔が見える形で、これからはますます多くの人にとっての「窓」として、一筋の光と風を運んでくれることを願っています。



機関誌（過去3年の発行内容）

月/No.	特集テーマ	巻頭インタビューのテーマ	インタビュイー
2014年度			
4月号 No.361	特集1：いのちを見つめる科学教育 特集2：第11回企業フィランソロピー大賞	生きる力を育てる教育は農業にあると確信しています	中村 桂子 氏（JT生命誌研究館 館長）
6月号 No.362	寄付育のススメ	長期投資と寄付で理想の社会を積極的に創っていく	渋谷 健 氏 （コモンズ投信株式会社 取締役会長）
8月号 No.363	未来をつくるお寺の挑戦	仏教の価値観で社会により影響を与えていく	松本 紹圭 氏 （一般社団法人お寺の未来 代表理事）
10月号 No.364	待ったなし、日本の森	あらゆるいのちへの優しさが美しい山をつくる	速水 亨 氏（速水林業 代表）
12月号 No.365	多文化共生と「ダブルリミテッド」の現状	言葉の力を信じる子どもを育てたい	山根 基世 氏（アナウンサー）
2月号 No.366	音楽が結ぶ人の心、人の力	「生きているだけですばらしい」と音楽で伝えたい	小曽根 真 氏（ジャズピアニスト）
2015年度			
4月号 No.367	第12回企業フィランソロピー大賞 第17回まちかどのフィランソロピスト賞	—	—
6月号 No.368	いつでもだれでもチャレンジできる社会を	元受刑者に心の羅針盤を授ける「職の親」	中井 政嗣 氏（千房株式会社 代表取締役）
8月号 No.369	人間を幸せにするロボットの実像	ロボットと一緒に築く人間の幸福とは	前野 隆司 氏（慶應義塾大学大学院システム・デザインマネジメント研究科委員長 / 教授）
10月号 No.370	「お・も・て・な・し」を超えるホスピタリティの本質を考える	お客様目線から生まれる日本一小さな航空会社の魅力	吉村 孝司 氏（天草エアライン株式会社 代表取締役社長）
12月号 No.371	寄付のススメ—寄付月間スタートに寄せて	途絶えていた寄付文化を再び取り戻す好機	小宮山 宏 氏（株式会社三菱総合研究所 理事長 / 寄付月間推進委員会 委員長）
2月号 No.372	障がい者スポーツに見るフェアプレーの本質	長崎から世界の舞台へ 高校生アスリートの挑戦	車椅子バスケットボール選手 鳥海 連志 氏
2016年度			
4月号 No.373	第13回企業フィランソロピー大賞 第18回まちかどのフィランソロピスト賞	—	—
6月号 No.374	フィランソロピーの温故知新 熊本地震の支援、いまこれから	「企業市民」と「ボランティア」の姿をたどりながら、今後のフィランソロピーの在り方を考える	松岡 紀雄 氏（神奈川大学名誉教授） 早瀬 昇 氏（日本NPOセンター 代表理事）
8月号 No.375	進化するCSVの未来を考える	企業と社会の新しい関係 循環型経済に挑む	山田 邦雄 氏（ロート製薬株式会社 代表取締役会長 兼 CEO）
10月号 No.376	これからの多様なボランティアの役割と可能性を探る	ボランティアに捧げた半世紀の軌跡	喜谷 昌代 氏（英国赤十字評議員）
12月号 No.377	寄付に託すもの～寄付月間に寄せて	「利他のリターン」を通してより幸せな人生を築いていこう	岡本 和久 氏（I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社 代表取締役社長）
2月号 No.378	未来の幸せを創るため、今、何をすべきか	研究者として関与した、四十年の公益の軌跡	雨宮 孝子 氏（前公益認定等委員会委員）

定例セミナー（過去2年間の開催実績）

開催月	テーマ	講師
2015年度		
第304回(4月)	里山資本主義を活かした企業経営のあり方	深谷 浩介氏(株式会社日本総合研究所 調査部首席研究員)
第305回(5月)	CSR基礎講座2015 第1回「企業におけるCSR担当者の役割と期待されること」	金田 晃一氏(武田薬品工業株式会社 コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックリソース CSRヘッド)
第306回(6月)	CSR基礎講座2015 第2回「CSR経営に資する社会貢献の推進」	高橋 陽子(公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長)
第307回(6月)	CSR基礎講座2015 第3回「今後の社会を見据えた、CSR全体および社会貢献のあり方」	関 正雄氏(損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR部 上席顧問)
第308回(7月)	今こそ求められる、経営倫理の理論と実践	水尾 順一氏(駿河台大学大学院総合政策研究科 教授)
第309回(8月)	夏休み特別企画～フィランソロピー映画の夕べ～ドキュメンタリー「みんなの学校」上映会と対談	迫川 緑氏(関西テレビ 事業推進部)
第310回(9月)	子どもの貧困～複雑化・深刻化する課題と支援のあり方	阿部 彩氏(首都大学東京 人文社会系都市教養学部 社会学コース 社会福祉学 教授)
第311回(10月)	環境NGOの現状と企業との連携～CSRのグローバル展開に向けて～	阿部 弘氏(積水化学工業株式会社 CSR部 環境経営グループ グループ長) 佐野 郁夫氏(独立行政法人環境再生保全機構 理事)
第312回(11月)	なつかしい未来を創る ～自然に学ぶあたらしいものづくりと暮らしのか・た・ち～	石田 秀輝氏(合同会社地球村研究室 代表、東北大学 名誉教授)
第313回(12月)	見たくない未来がやってくる ～社会の難題に立ち向かう勇気とスキル～ 「見たくない未来がやってくる ～イノベーションと「ラダタイムチェンジ」社会課題解決のためのビジネス事例発表	米倉 誠一郎氏(一橋大学イノベーション研究センター 教授) 川添 高志氏(ケアプロ株式会社 代表取締役社長) 吉野 慶一氏(Dari K株式会社 代表取締役) 鳥巢 彩乃氏(株式会社リクルートホールディングス R & D本部 Media Technology Lab)
第314回(1月)	フィランソロピー・ミッションを達成するための交渉学入門～理論と実践～	田村 次朗氏(慶應義塾大学法学部 教授)
第315回(2月)	事業所主体の社会貢献活動の推進 ～環境整備と情報共有	廣井 ゆりあ氏(日本電気株式会社 コーポレートコミュニケーション部 CSR・社会貢献室エキスパート) 岩橋 芳部氏(大和ハウス工業株式会社 CSR部 社会責任グループ主任)
第316回(3月)	今、企業に期待される長期的・日常的な被災地支援とは～日本の将来を見据えたCSR活動への展開に向けて～ 「被災地の今とこれから」 「産業支援を通じた被災地との長期的な関係づくり」 「子どもたちの未来を企業連携で支える」	元田 久美子氏(一般社団法人宮古観光文化交流協会 学ぶ防災ガイド) 家田 えり子氏(株式会社資生堂 サステナビリティ戦略部 戦略グループマネージャー) 長沼 孝義氏(公益財団法人みちのく未来基金 理事長)
2016年度		
第317回(4月)	CSR基礎講座2016 第1回「CSR経営に資する社会貢献の推進～社会の中での企業の役割～」	高橋 陽子(公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長)
第318回(5月)	CSR基礎講座2016 第2回「企業の社会貢献活動を立ち上げ広めてきた経験からの示唆」	嶋田 実名子氏(個人情報保護委員会委員、前 公益財団法人花王芸術・科学財団 常務理事)
第319回(6月)	CSR基礎講座2016 第3回「CSR活動の土台となる理念の構築と社内を動かす仕組みづくり」	黒坂 三重氏(楽天株式会社 執行役員 CSR部 部長)
第320回(6月)	CSR基礎講座2016 第4回「企業におけるCSR担当者の役割と期待されること」	金田 晃一氏(武田薬品工業株式会社 コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズCSRヘッド)
第321回(7月)	企業は、なぜCSRに取り組むのか ～欧州の先進企業の事例から考える～	下田屋 毅氏(Sustainavision Ltd.(サステナビジョン) 代表取締役)
第322回(9月)	「良心」による企業統治を考える～「良心」と「自利心」の双方を活かした経営とは～	田中 一弘氏(一橋大学 大学院商学研究科 教授)
第323回(10月)	福島県の障がい者スポーツ普及活動から企業のボランティア機会を考える	増子 恵美氏(公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会 書記)
第324回(11月)	社員ボランティアの推進 ～先進的な取り組み企業事例と協働NPOからのヒント～	植木 陽子氏(MSD株式会社 広報部門 企業広報 シニア・スペシャリスト) 佐藤 貴之氏(株式会社 ジェーシービー 広報部 CSR室 主事) 五十嵐 哲氏(大日本印刷株式会社 CSR・環境安全部 CSR推進チーム) 竹垣 英信氏(NPO法人森のライフスタイル研究所 遊撃隊員兼代表理事所長)
第325回(12月)	誰もが求める人と人とのつながり～映画「隣(とな)る人」から人に寄り添う意味を考える～	映画:「隣る人」対談:「子どもに寄り添うということ」(話し手:児童養護施設 東京家庭学校 施設長 松田 雄年氏)
第326回(1月)	スポーツを通じての社会貢献活動と人材育成を考える	北澤 豪氏(サッカー元日本代表/(一社)日本障がい者サッカー連盟会長 他)
第327回(2月)	社員参加型の社会貢献～社内募金・マッチングギフトにおける工夫～	伊藤 春香氏(アメリカンファミリー生命保険会社 広報部 社会公共活動推進課長) 瓜生 振一郎氏(三菱重工株式会社 グループ戦略推進室 広報部 CSRグループ グループ長)
第328回(3月)	人材育成に資する社会貢献活動の戦略的可能性	伊藤 佐和氏(ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ 社会貢献委員会 マネージャー) 広瀬 雄樹氏(積水ハウス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 CSR室長)

寄付推進プログラム（NPO への支援）2017 年度 実績

寄付元企業	寄付先団体	寄付元企業	寄付先団体	
アメリカン・エクスプレス ・インターナショナル Inc	公益財団法人熊本YMCA	株式会社ジェーシービー	特定非営利活動法人熱気球運営機構 一般社団法人ほまれの会 NPO 法人コーヒータイム 一般社団法人障害者がとともに暮せる地域創生館 特定非営利活動法人じぶん未来クラブ 公益社団法人 MORIUMIUS 特定非営利活動法人おはなしころりん 特定非営利活動法人いわき放射能市民測定室たらちね 特定非営利活動法人吉里吉里国 特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所 特定非営利活動法人生活支援プロジェクトK 一般社団法人ボランティアステーション in 気仙沼 特定非営利活動法人陸前たかた八起プロジェクト 特定非営利活動法人いなほ 特定非営利活動法人高岡町 3.11 を語る会 一般社団法人石巻・川の上プロジェクト 公益財団法人熊本YMCA (任意団体) 訪問ボランティアナースの会キャンパス熊本 一般社団法人マザー・ウィング	
株式会社 NTT データ	公益財団法人あすのぼ 特定非営利活動法人 ACE 特定非営利活動法人 ReBit		東海上日動あんしん 生命保険株式会社	特定非営利活動法人認知症フレンドシップクラブ 特定非営利活動法人難病のこども支援全国ネットワーク 特定非営利活動法人日本クリニクラウン協会
株式会社かんぼ生命保険	特定非営利活動法人北海道森林ボランティア協会 特定非営利活動法人もりねっと北海道 特定非営利活動法人いわて森林再生研究会 特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会 NPO 法人いわきの森に親しむ会 特定非営利活動法人穴塚の自然と歴史の会 特定非営利活動法人トチキ環境未来基地 特定非営利活動法人フォレストぐんま 21 特定非営利活動法人よこはま里山研究所 特定非営利活動法人 JUON NETWORK 特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所 特定非営利活動法人やまぼうし自然学校 特定非営利活動法人里山クリーン新潟 特定非営利活動法人きんたろう倶楽部 特定非営利活動法人角間里山みらい 特定非営利活動法人穂の国森づくり会 特定非営利活動法人メタセコイアの森の仲間たち 特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会 特定非営利活動法人森林の風 特定非営利活動法人自然と緑 特定非営利活動法人日本森林ボランティア協会 特定非営利活動法人里山ねっと・あやべ 特定非営利活動法人賀露おやじの会 特定非営利活動法人もりふれ倶楽部 特定非営利活動法人フォレストフォー ビーブル岡山 特定非営利活動法人もりメイト倶楽部 Hiroshima 特定非営利活動法人朝霧森林倶楽部 特定非営利活動法人山村塾 特定非営利活動法人かいらう基山 特定非営利活動法人天明水の会 特定非営利活動法人四季の会 特定非営利活動法人おきなわグリーンネットワーク		東洋ゴム工業株式会社	特定非営利活動法人高田松原を守る会 特定非営利活動法人黒松内ぶなの森自然学校運営協議会 公益財団法人キープ協会 特定非営利活動法人里山倶楽部 一般財団法人 C.W. ニコルファンズの森財団
		株式会社ファンケル	公益財団法人みちのく未来基金 社会福祉法人侑愛会 社会福祉法人つどいの家 特定非営利活動法人うりすん 社会福祉法人訪問の家 社会福祉法人八ヶ岳名水会 社会福祉法人くろべ福祉会 社会福祉法人ノリツァ事業会 社会福祉法人ともえ会 社会福祉法人今治福祉施設協会 社会福祉法人島原市手をつなぐ育成会	

寄付元企業	寄付先団体	寄付元企業	寄付先団体
Fidelity International Foundation	特定非営利活動法人トイボックス 特定非営利活動法人 3keys	明治安田生命保険相互会社 (チャリティーコンサートでの募金)	特定非営利活動法人おはなしころりん 一般社団法人プレーワーカーズ 特定非営利活動法人こどもむげん感ばにー 特定非営利活動法人あぶくまエヌエスネット 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎 特定非営利活動法人ノバクト
株式会社みずほ フィナンシャルグループ	特定非営利活動法人マザーリンク・ジャパン 特定非営利活動法人しんせい 特定非営利活動法人 ReBit 特定非営利活動法人全国女性会館協議会 特定非営利活動法人いるかねっと		(社会貢献活動基金)
株式会社三井住友銀行 ボランティア基金 (テーマ選出)	特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン 特定非営利活動法人イーパーツ 特定非営利活動法人森は海の恋人 特定非営利活動法人ダイバーシティ工房 特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパン 特定非営利活動法人チャイルドファーストジャパン 特定非営利活動法人ピッキオ 特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海 特定非営利活動法人児童虐待防止協会 特定非営利活動法人 DXP NPO 法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 特定非営利活動法人子どもシェルターモモ 特定非営利活動法人いちごいち笑～明日香の家族～ 特定非営利活動法人 eEducation 特定非営利活動法人イカオ・アコ 社会福祉法人全国盲ろう者協会 特定非営利活動法人国境なき子どもたち 特定非営利活動法人ブリッジ エーシア ジャパン 公益財団法人ジョイセフ 特定非営利活動法人日本ハピタット協会	株式会社ゆうちょ銀行	特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク 認定 NPO 法人ひらた里山の会 特定非営利活動法人オオタカ保護基金 特定非営利活動法人自然環境アカデミー 特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議 特定非営利活動法人ねっとわーく 福島潟 特定非営利活動法人中池見ねっと 特定非営利活動法人桶ヶ谷沼を考える会 特定非営利活動法人びわ湖トラスト 特定非営利活動法人自然再生センター 特定非営利活動法人新町川を守る会 特定非営利活動法人エコけん 特定非営利活動法人夏花
(社員ボランティア 先から選出)	社会福祉法人東京栄和会 特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブ・オリーブ 特定非営利活動法人山の自然学クラブ 社会福祉法人啓光福祉会 (啓光学園) 特定非営利活動法人聴覚障害教育支援大塚クラブ 特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会 特定非営利活動法人瓜生福祉会 グループホーム瓜生 一般社団法人コモン・ニジェール 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 特定非営利活動法人大学連携・地域創生支援センター 特定非営利活動法人円形脱毛症の患者会	個人 1 名	特定非営利活動法人放課後 NPO アフタースクール

貸借対照表

(2018年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	2017年度	2016年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 預 金	22,336,845	31,226,128	△ 8,889,283
未 収 金	10,123,738	11,445,495	△ 1,321,757
前 払 費 用	4,237,827	1,889,876	2,347,951
立 替 金	194,290	0	194,290
貯 蔵 品	246,181	396,674	△ 150,493
流動資産合計	37,138,881	44,958,173	△ 7,819,292
2. 固定資産			
役員退任慰労引当資産	13,375,000	11,877,000	1,498,000
職員退職給付引当資産	4,340,360	2,806,600	1,533,760
受取寄付金資産	113,122,957	100,610,169	12,512,788
受取助成金資産	9,833,263	10,296,901	△ 463,638
普及啓発事業等積立資金	50,000,000	50,000,000	0
ソ フ ト ウ ェ ア	1,387,501	1,467,169	△ 79,668
そ の 他	8,688	14,062	△ 5,374
固定資産合計	192,067,769	177,071,901	14,995,868
資産合計	229,206,650	222,030,074	7,176,576
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	6,966,983	8,126,063	△ 1,159,080
前 受 金	6,043,333	2,305,121	3,738,212
預 り 金	1,552,926	841,532	711,394
未 払 消 費 税 等	1,540,100	765,500	774,600
賞 与 引 当 金	2,541,500	2,729,000	△ 187,500
流動負債合計	18,644,842	14,767,216	3,877,626
2. 固定負債			
役員退任慰労引当金	13,375,000	11,877,000	1,498,000
職員退職給付引当金	4,340,360	2,806,600	1,533,760
固定負債合計	17,715,360	14,683,600	3,031,760
負債合計	36,360,202	29,450,816	6,909,386
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	122,956,220	110,907,070	12,049,150
指定正味財産合計	122,956,220	110,907,070	12,049,150
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(122,956,220)	(110,907,070)	(12,049,150)
2. 一般正味財産	69,890,228	81,672,188	△ 11,781,960
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(50,000,000)	(50,000,000)	(0)
正味財産合計	192,846,448	192,579,258	267,190
負債及び正味財産合計	229,206,650	222,030,074	7,176,576

会員数の推移

	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末	2017年度末
正会員(法人)	37	34	34	33	29	27
賛助会員(法人)	74	80	79	81	88	93
賛助会員(個人)	89	88	89	83	88	91

正味財産増減計算書

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	2017年度	2016年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受 取 会 費	22,962,000	22,728,000	234,000
正 会 員 受 取 会 費	10,920,000	10,920,000	0
賛 助 会 員 受 取 会 費	12,042,000	11,808,000	234,000
事 業 収 益	61,806,544	40,451,189	21,355,355
公 1. 社 会 貢 献 啓 発 事 業 収 益	267,858	439,054	△ 171,196
公 2. 社 会 貢 献 促 進 事 業 収 益	60,720,876	38,892,997	21,827,879
公 3. 共 生 社 会 創 造 事 業 収 益	817,810	1,119,138	△ 301,328
受 取 助 成 金	19,782,368	23,529,530	△ 3,747,162
受 取 寄 付 金	219,895,624	194,841,004	25,054,620
受 取 利 息	13,742	4,493	9,249
受 取 利 息	2,742	4,493	△ 1,751
受 取 利 息	11,000	0	11,000
経 常 収 益 計	324,460,278	281,554,216	42,906,062
(2) 経常費用			
事 業 費 (公1 社 会 貢 献 啓 発 事 業 費)	322,563,312	284,145,068	38,418,244
(公2 社 会 貢 献 促 進 事 業 費)	8,583,681	10,112,763	△ 1,529,082
(公3 共 生 社 会 創 造 事 業 費)	301,418,414	257,770,521	43,647,893
(公 益 共 通 事 業)	11,936,738	15,455,648	△ 3,518,910
管 理 費	624,479	806,136	△ 181,657
管 理 費	13,678,926	15,602,883	△ 1,923,957
経 常 費 用 計	336,242,238	299,747,951	36,494,287
当 期 経 常 増 減 額	△ 11,781,960	△ 18,193,735	6,411,775
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 11,781,960	△ 18,193,735	6,411,775
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	81,672,188	99,865,923	△ 18,193,735
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	69,890,228	81,672,188	△ 11,781,960
II 指定正味財産増減の部			
受 取 助 成 金	19,570,114	16,519,590	3,050,524
受 取 寄 付 金	215,130,132	104,387,725	110,742,407
一 般 正 味 財 産 へ 振 替	△ 222,651,096	△ 179,823,469	△ 42,827,627
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	12,049,150	△ 58,916,154	70,965,304
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	110,907,070	169,823,224	△ 58,916,154
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	122,956,220	110,907,070	12,049,150
III 正味財産期末残高	192,846,448	192,579,258	267,190

役員・顧問

会長	浅野 史郎	神奈川大学特別招聘教授／元・宮城県知事
副会長	田中 克人	東北福祉大学特任教授
●理事長	高橋 陽子	
●常務理事	倉光 恭三	
理事	井関 利明	慶應義塾大学名誉教授
理事	太田 達男	公益財団法人公益法人協会 会長
理事	木全 ミツ	認定特定非営利活動法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に 会長・理事長
理事	河野 通和	株式会社ほぼ日 取締役 ほぼ日の学校長
理事	佐藤 雄二郎	株式会社共同通信社 代表取締役社長
理事	篠塚 英子	お茶の水女子大学名誉教授
理事	永田 俊一	楽天銀行株式会社 取締役
理事	藤原 作弥	エッセイスト／元・日本銀行副総裁
理事	藤原 房子	ジャーナリスト
理事	堀田 力	公益財団法人さわやか福祉財団 会長
理事	村木 厚子	元・厚生労働事務次官
理事	山崎 美貴子	東京ボランティア・市民活動センター所長
監事	奥川 貴弥	弁護士
監事	尾崎 輝郎	公認会計士
顧問	松岡 紀雄	神奈川大学 名誉教授

(常勤は●印、2018年8月1日現在)

2017年度 ANNUAL REPORT

2018年8月1日 発行

発行：公益社団法人 日本フィランソロピー協会

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 244

TEL：03-5205-7580

FAX：03-5205-7585

URL：<http://www.philanthropy.or.jp>



(最寄駅)

- JR「東京」駅 丸の内北口より徒歩5分
- 地下鉄「大手町」駅 B3出口直結
(東京メトロ丸ノ内線/千代田線/東西線/半蔵門線、都営地下鉄三田線)